# 情　報　公　開　文　書

2025 年 1 月 17 日

| | |
|---|---|
| 研究の名称 | ヒト側頭骨標本による内耳構造の三次元構築を用いた理学療法の理解 |
| 整理番号 | |
| 研究機関の名称 | 富山大学附属病院 |
| 研究責任者<br>（所属・氏名） | 医学部医療機器イノベーション共同研究講座・將積日出夫 |
| 研究の概要 | 【研究対象者】<br>福島県立医大耳鼻咽喉科で保管される側頭骨標本<br><br>【研究の目的・意義】<br>良性発作性頭位めまい症（BPPV）は、末梢性めまいの中で最多であり全体の約 4 割を占める。その病態は、耳石器から耳石が脱落して三半規管内に迷入することが原因で、後半規管型 BPPV と外側半規管型 BPPV に対して特異的な理学療法により治療が行われている。健常者の CT 画像から骨迷路情報を抽出し作成されたこれまでの BPPV 治療練習用モデルでは、外側半規管型 BPPV に対して生体で治療とされる頭部回転よりも小さい角度で外側半規管から耳石が排出される問題があり、本来耳石が移動する膜迷路情報を用いた新しいモデルが必要となってきた。そこで、本研究では、福島県立医大耳鼻咽喉科に保管されている側頭骨標本から膜迷路情報を取得して、新しいモデル作成に役立てることを目的とする。<br><br>【研究の方法】<br>本研究では、Brodel(1946)による三半規管の三次元画像を元に膜迷路モデルを構築する。さらに、Brodel の画像は平均値によるため、個体差や種差を検討するため共同研究施設（福島県立医大耳鼻咽喉科）に出向して側頭骨の検鏡を行う。側頭骨標本の検鏡等から得られた内耳の解剖学的計測データにより膜迷路モデルの改良に役立て、理学療法に対する改良膜迷路モデルの有用性を検討する。<br><br>【研究期間】<br>実施許可日　～　2027 年 3 月 31 日<br><br>【研究結果の公表の方法】<br>本研究の未発表データ等の情報及び本研究の結果の一部又は全部を学会，雑誌等外部に発表する場合には，研究責任者の責任のもと取り扱うこととする。 |
| 研究に用いる試料・情報の項目と利用方法（他機関への提供の有無） | カメラ・ルシダを双眼顕微鏡に装着し、標本を紙の上にスケッチする。スケッチは富山大学医学部医療機器イノベーション共同研究講座に持ち帰り、ソフトを用いて三次元構築を行う。側頭骨標本の検鏡等から得られた骨迷路および膜迷路の解剖学的計測データは共同研究施設（ジャパンメディカルカンパニー）に送り、膜迷路モデルの改良に役立る。 |
| 研究に用いる試料・情報を利用する機関及び施設責任者氏名 | （全ての共同研究機関の名称と研究責任者氏名を記載。研究機関以外で試料・情報を取り扱う者が含まれる場合、当該者氏名と所属機関名を記載。ただしこれらが多数である場合は代表的な研究機関名と研究責任者氏名を記載） |

| | |
|---|---|
| 研究資料の開示 | 研究対象者、親族等関係者のご希望により、他の研究対象者等の個人情報及び知的財産の保護等に支障がない範囲内で研究計画書等の研究に関する資料を開示いたします。 |
| 試料・情報の管理責任者（研究主機関における研究責任者氏名） | 將積日出夫 |
| 研究対象者、親族等関係者からの相談等への対応窓口 | 研究対象者からの除外(試料・情報の利用または他機関への提供の停止を含む)を希望する場合の申し出、研究資料の開示希望及び個人情報の取り扱いに関する相談等について下記の窓口で対応いたします。<br>電話　076-434-7368<br>FAX　076-434-5038<br>E-mail　hiromasa@med.u-toyama.ac.jp<br>担当者所属・氏名　耳鼻咽喉科・高倉大匡 |